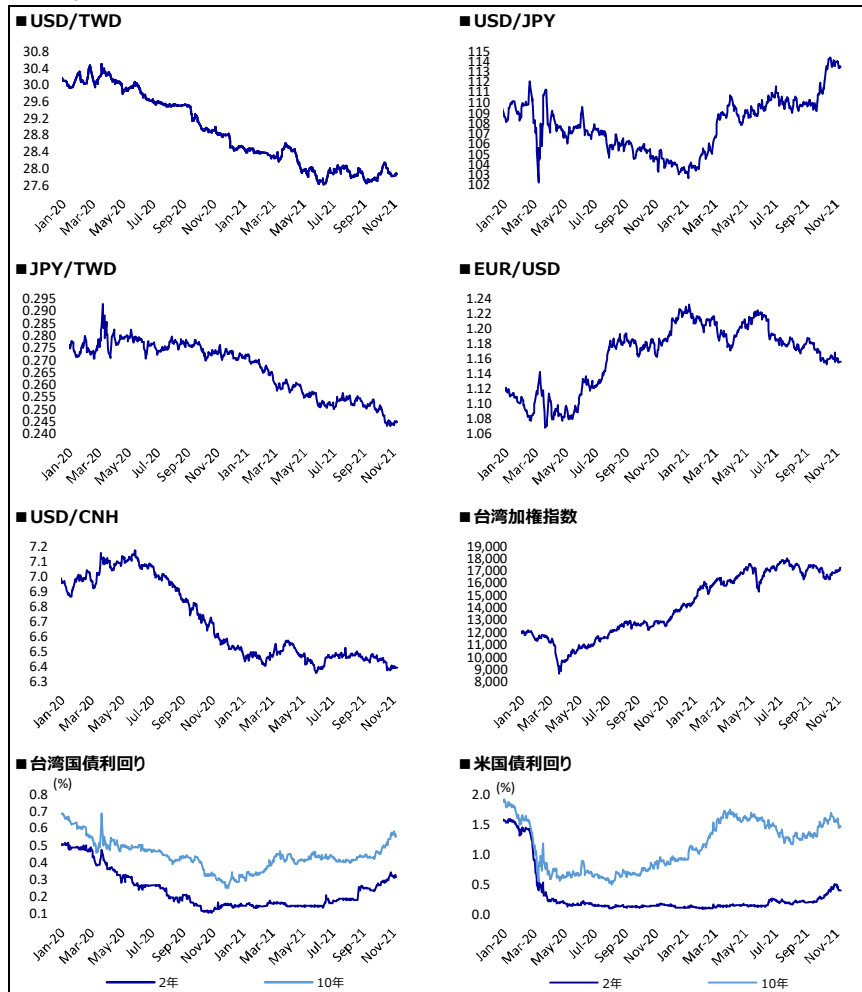


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初11/1は27.840でオープン後、FOMCを控え取引も少なく、動意に乏しい展開に。11/2も台湾株が買われる動きから台湾ドルが買われる場面もあったが、FOMCを控えレンジで推移。11/3は、韓国ウォン等のアジア通貨が弱含む中、外国人投資家の資金流出により27.9台に一時タッチしたものの滞空時間は短くすぐに戻された。11/4はFOMCで量的緩和の縮小を決定し、大きなサプライズもなく、台湾株が上昇する中、一時27.795まで下落。その後はすぐに27.83付近まで戻したが、台湾株が下げに転じたことを受けて27.88付近まで上昇。11/5は外国人投資家の台湾ドル売りのフローから一時27.927まで上昇したが、27.92を超えたことで、月初ながら輸出企業のドル売りが入ったことや、外国人投資家の株の買い越し額が大きくなり、台湾ドルは買い戻された。最終的には先週比0.2%ドル高台湾ドル安の27.882で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は216.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初11/1は114.10でオープン後、週末の衆議院選で与党が絶対安定多数を確保したことで日経平均が急上昇し、ドル円はじり高となり一時114.44まで上昇したが、FOMC、米雇用統計とイベントを控え、上値を迫る動きは限定的に。11/2はFOMCを前に調整の動きもあり、113円台半ばまで反落。11/3は東京休場でFOMCを控え、様子見ムードから狭いレンジで推移していたが、FOMCを前に発表された米経済指標が予想を上回り、114円台前半に上昇。FOMCでは予想通り11月からテーパリング開始を決定したが、パウエルFRB議長の会見でのハト派的な発言から114円近辺まで押し戻された。11/4は英中銀が金融政策の据え置きを発表すると、一部では利上げを見込んでおり、欧州債の利回りが低下。米国債の利回りも低下し、ドル円は113円台半ばに。11/5は米雇用統計では、非農業部門雇用者数が大幅改善、失業率も予想より改善との結果を受け114円台に上昇。しかし、労働参加率が予想を下回り、平均時給の上昇が一時的との見方からFRBの利上げスタンスを早めるまでの結果ではないと受け止められ、米金利が急低下し、ドル円は一時113.30まで下落。最終的に先週比0.5%ドル安円高の113.41で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.780-27.940
米雇用統計を受けて米金利が低下したものの、今週は米CPIの発表を控えており、再度上昇する可能性もある。一方、株が堅調に推移する中、台湾ドル買いの動きも見られるため、売り買い交錯し、揉み合う展開を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：113.20-114.20
引き続き、米国の利上げ時期が焦点であるが、今週は米CPIの発表を控えている。米雇用統計を受けて、一旦、米金利は低下しているが、米金利の上昇のきっかけとなり114円台に戻す展開を見込む。

今週の予定

11/8 (MON)	台湾10月貿易収支
11/9 (TUE)	米10月PPI
11/10 (WED)	米10月CPI
11/11 (THU)	
11/12 (FRI)	米11月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。